



第34回関西大学統一学園祭を開催

「STAND UP!! 関祭!!!」

2011年度の第34回関西大学統一学園祭が、11月3日から6日まで千里山キャンパスで開催された。今年のテーマは、「STAND UP!! 関祭!!!」。さまざまな企画や催しが繰り広げられ、関大生のパワー全開の4日間となった。



▲各自治体・団体と地域連携し、開設した「地域の魅力アピールコーナー」

東日本大震災の年に開催する学園祭として、テーマの「STAND UP!! 関祭!!!」には、関西大学の学生、教職員、校友や地域の方々が文字通り「立ちあがり」、手を取り合って日本全体に「元気」を発信したいという強い思いが込められている。

関西大学統一学園祭は、学部ごとの学園祭実行委員会と、課外活動団体の有志で構成されたサークル祭実行委員会を中心となって運営する。総勢約700人の学園祭スタッフが、関西大学統一学園祭を作っている。

今年の学園祭も、多くのサークルやゼミが出店する模擬店やフリーマーケットをはじめ、研究発表、ステージ企画、講演会、地域と連携したイベントなど、連日さまざまな企画や催しで賑わった。

11月5日には、ナオト・インテライミ、ET-KING、九州男の3組をゲストに迎え、学園祭の目玉ともいえるライブを開演。今までにない3組合同のイベントに、会場の中央体育館は大いに盛り上がった。

また、5日、6日には、関西大学と連携協定を締結した自治体・団体が「地域の魅力アピールコーナー」を凧風館横に開設。地元特産品の販売や観光パンフレットの配布を行った。出展した自治体は、大阪府堺市・吹田市・高槻市・池田市、京都府城陽市、兵庫県丹波市・加西市、奈良県葛城市、佐賀県武雄市、福井県、天神橋筋商店連合会(一部は1日のみの出展)。

6日の夕刻には、学園祭最大のイベントである「後夜祭」が悠久の庭で開催され、感動のフィナーレとなった。

Action!

東日本大震災に関する  
関西大学の取り組み

被災地の現状を知り、  
心を共にするために

関西大学では東日本大震災発生以来、被災地の現状を知り、被災者の方々と心を共にするために、さまざまな活動を行っている。その一部を報告する(大学ホームページに順次掲載)。



◎「ワタノスマイル@関大」を開催

4月から被災地へボランティアを派遣している商学部長の長谷川ゼミが7月4日～8日、千里山キャンパス凧風館学生ラウンジで「ワタノスマイル@関大」(東日本大震災被災地：石巻市立渡波小学校



子どもたちの笑顔と立体オブジェ展)を開催した。NPO スマイルホープ(代表：犬飼とも氏)と連携し、約200人が避難生活を送っている石巻市立渡波小学校の子どもたちの写真と、津波で校庭に流れ着いた「町のカケラたち(ガレキ)」を使って子どもたちが作ったオブジェを展示。5日間で400人以上の来場者があり、140件を超えるメッセージが寄せられた。

◎「被災地に学ぶプロジェクト」を実施



社会安全学部では、8月22日～25日、教員と学生有志による「東日本大震災の被災地に学ぶプロジェクト」を実施した。被災地を訪問し、その実像に触れることで、社会安全学を志す学生たちの重要な学びの場

としようという企画に、40人の学生と院生が参加した。宮城県の仙台市、南三陸町、七ヶ浜町、亘理町などを訪問。津波の傷跡が生々しく残っている街や施設で、多くの人の声を聞いた。

◎「いわて GINGA-NET プロジェクト」に参加

本学学生20人が8月24日～30日、「いわて GINGA-NET プロジェクト」に参加した。岩手県立大学学生ボランティアセンターなどボランティア団体が合同で実施しているプロジェクトの主な活動は、岩手県住田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市でのコミュニティ形成のためのサロン活動、子ども向けの学習支援、遊び支援など。また、その活動の「ふりかえり」を9月13日と28日に関西大学ボランティアセンターで実施し、参加者がそれぞれ想いを深めた。

◎被災地で理科実験の出張講義を実施

宮城県石巻市立石巻小学校など5校で、9月5日～9日、本学教員による小学校への出張講義(理科実験)を実施した。被災地での初等・中等教育を支援することのうち、特に被災による小学校での理科実験の設備整備が整わない環境を補う効果的な理科実験授業を行うことを目的として、本学から被災地の教育委員会に提案して実現した。システム理工学部の倉田純一准教授、化学生命工学部の河原秀久准教授、山出和弘講師が講師を務めた。

◎政策創造学部の学生らが「まごころ講談会」に参加

政策創造学部の学生や講談師の旭堂南陽さんらが結成した「まごころ講談会」では、鰻谷商店街(大阪市)と連携した活動を行っている。



9月30日から3日間、学生2人と橋口勝利准教授らが被災地を訪問した。被災地を訪れた旭堂南陽さん(右)と、政策創造学部の萬代由美子さん(中)と野田萌子さん。第2回目の訪問である今回の目的は「郡山市コミュニティ川柳の集い」の方々に震災にかかわる川柳を詠んでいただき、鰻谷商店街の川柳通りに優秀作品40句以上を掲示することであったが、加えて石巻日日新聞社への訪問や福島大学・東北大学の教授や学生らとの討論会も行った。

10月25日には深井麗雄教授の授業で、11月13日には大阪市内のスポニチプラザ大阪で、学生が被災地の現状を伝え、南陽さんが震災をテーマに講談を披露した。

